

受賞者の概要

1 農業経営の部

審査経過

今年度の農業経営の部には、各地から7点の応募があった。受賞された方々は先見性のある経営戦略のもと、ICT技術の活用による生産技術向上やコスト削減等の努力に加え、販売方法についても様々な創意工夫を重ねることで、高い所得を確保しており、本県の農業振興に大きく貢献し、農業者の模範となる経営が多く見られた。

審査は、「経営、生産技術、販売」の評価を基本に、地域貢献や環境保全、安全・安心といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て各賞を選出した。

受賞者の概要

大賞（農林水産大臣賞・栃木県知事賞）

◆株式会社ベリーズバトン（真岡市）

【経営の特色】

- ・1.3haのいちごを栽培する農業法人であり、高設栽培や環境制御装置を導入し、効率的な生産を行っている。
- ・従業員を対象とした勉強会を定期的実施し、従業員自らが考えて栽培管理に取り組むことができるよう教育しているほか、栃木県主催の「モノづくり改善道場」に参加し、コンサルタントの指導を受けながら作業現場の改善を進めるなど、働きやすい環境づくりにも取り組んできた。
- ・販売では、JA部会で平成25（2013）年産から10年連続販売額第1位を達成するほか、自社ホームページやECサイトを活用するとともに、オリジナルのギフトボックスによる贈答用の需要にも対応している。
- ・令和3（2021）年度からは、いちご定植苗の受託生産にも取り組んでいる。

【受賞のポイント 高い技術力と的確な雇用管理により企業的農業経営を実践】

県内トップクラスの規模で生産を行いつつ、高い技術力と的確な雇用管理で県平均を大きく上回る単収を確保している。また、従業員の声を反映した現場改善や、いちごに関する勉強会の開催など、風通しが良く、働きやすい環境づくりにも熱心に取り組んできた。さらに、定植苗の生産にも取り組み、日本一のいちご産地の発展に大きく貢献している点が特に高く評価され、大賞に選出された。



新井孝一代表取締役



いちご勉強会に参加する従業員

栃木県知事賞

◆株式会社和みの杜（さくら市）

【経営の特色】

- ・グループ会社である運送会社と連携して、さつまいもの生産・加工のほか、水稻、露地野菜などを約30haを栽培する農業法人である。
- ・運送会社の取引先をはじめ、県内外に干し芋を販売している。
- ・市内の廃校をリノベーションして干し芋加工場を整備し、運営している。

【受賞のポイント 企業参入の強みを活かした経営展開】

農地を積極的に借り受けたり、地域の雇用を創出したりするなど、地域に根付いた経営であり、今後の法人による農業参入の模範となる点が評価された。



右から高野代表取締役、松井工場長、益子統括部長



さつまいもの収穫風景

栃木県知事賞

◆古谷 慶一・古谷 明美（大田原市）

【経営の特色】

- ・土地利用型品目を中心に、農薬や化学肥料を使用しない有機栽培に取り組む。
- ・農家民泊や農業体験を積極的に受け入れ、農業や農家生活の魅力を子どもたちに伝えるほか、うどん、米粉、日本酒など有機農産物の6次産業化にも精力的に取り組んでいる。

【受賞のポイント 自然と共生する農法の確立と発信】

6次産業化による高付加価値化などの取組が、地域住民の有機農業に対する意識を高めるきっかけとなっており、県内の有機農業推進に大きく貢献している点が評価された。



古谷慶一氏(左)・古谷明美氏(右)



子どもたちの農業体験の様子

栃木県知事賞

◆柏淵 衛雄・柏淵 真弓（鹿沼市）

【経営の特色】

- ・にら約6haの栽培に取り組む。
- ・市場価格変動の影響を受けにくい加工・業務用を中心に出荷している。
- ・複数の品種を組み合わせることで、周年栽培を可能としている。

【受賞のポイント 高い技術と経営リスク分散でにら産地を牽引】

優れた経営感覚によりリスク分散に取り組み、農業情勢の変化に対応している点や、さまざまなメディアでにらのPRを行い、産地全体の振興に寄与してきた点が評価された。



柏淵衛雄氏



柏淵氏（中央後方）と従業員

特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

◆齋藤 賢司（足利市）

【経営の特色と受賞のポイント】

- ・いちご 36a の栽培と定植苗 4,000 本の受託生産を行っている。
- ・天敵を活用した病害虫防除や、排液の少ない閉鎖型高設栽培などを導入し、環境負荷の少ない栽培に取り組んでいる。
- ・農協出荷に加えて、自動販売機による販売や直売にも取り組んでおり、経営の安定化を図っている。
- ・基礎的技術の励行により技術向上を図ってきたことに加え、その技術を新規就農者に伝承することで、産地の発展に貢献してきた点が評価された。

特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

◆坂本 浩（宇都宮市）

【経営の特色と受賞のポイント】

- ・約 30a のアスパラガスを中心に、施設野菜や水稻の栽培を行っている。
- ・化学農薬を使用しない肥培管理や減農薬栽培を行うとともに、GAP にも積極的に取り組んでいる。
- ・市内外の就農希望者の指導にも意欲的で、これまでに 7 名の研修生を受け入れてきた。
- ・環境負荷の少ない栽培や先進技術の導入・普及、さらには、次世代の担い手育成など、生産だけでなく幅広い面において地域農業を支えている点が評価された。

特別賞（下野新聞社長賞）

◆篠木 利一（栃木市）

【経営の特色と受賞のポイント】

- ・ねぎ約 830a を栽培し、規模・販売額ともに県内トップクラスを誇っている。
- ・地元スーパー等との契約栽培、品種や作型に合った計画的な作付け等により、リスクを抑えた安定的な経営を実践している。
- ・後継者が 2 名いることから、近い将来法人化し、担い手としてさらに地域に貢献することを志している。
- ・従業員や地域住民、出荷先業者など、経営に携わる様々な主体と信頼関係を築き上げ、大規模露地野菜経営体として、長年にわたり産地を牽引してきた点が評価された。

2 農村活性化の部

審査経過

今年度の農村活性化の部には、各地から8点の応募があった。他の組織と連携し、地域資源や人材を活かした地域活性化に取り組み、地域の魅力発信による交流人口の増加に寄与するなど、本県の農村活性化に大きく貢献し、他地域の模範となる組織・団体が多く見られた。

審査は「地域づくりの担い手の確保、地域農林水産業への寄与、住みよい農村環境の保全・向上」の評価を基本に、地域づくりのための自主的な努力・創意工夫や合意形成・計画性、推進体制の整備・運営といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て各賞を選出した。

受賞者の概要

大賞（関東農政局長賞・栃木県知事賞）

◆NPO 法人あがた農楽園（足利市）

【活動の特色】

- ・働く意欲があっても就労機会が少ない高齢者が多いことや、障がい者が低い賃金で働いているという問題意識から、令和2（2020）年に法人を設立した。
- ・地元農業者を中心に、社会福祉法人との連携のもと、障がい者や高齢者とともに、耕作放棄地を再生した農園で、農産物の栽培・収穫・販売までを行っている。
- ・新規就農者を含む若手の会員が、積極的に障がい者の作業指導に携わっている。
- ・収穫した農産物は、オリジナルのパッケージを使用して直売所やスーパーで販売することで、高付加価値化を図っている。
- ・使われていないビニールハウスを活用してスナップエンドウを栽培し、収穫期間の長期化による就労機会の創出を図っている。
- ・市有地をコスモス畑として活用するほか、市から地域の公園の管理委託を受けてイルミネーションを設置するなど、景観保全にも取り組んでいる。

【受賞のポイント 高齢者も障がい者もみんなが生き生きと活躍できる地域づくりの展開】

地域の将来像やその実現に向けた法人の取組内容を、「あがたの未来プロジェクト」として見える化し住民と共有したことで、活動の賛同者を増やしてきた。法人設立から約2年という新しい組織でありながら、市内小中学校や女性会など多くの主体と連携しながら、活動の幅を広げてきた点、そしてその活動により、今後、地域農業のさらなる発展が期待できる点が特に高く評価され、大賞に選出された。



あがた農楽園のメンバー



じゃがいもの定植作業

栃木県知事賞

◆日光茅ポッチの会（日光市）

【活動の特色】

- ・土呂部地区内外の有志で結成し、茅ポッチのある里山風景の保全や都市農村交流などを通じた地域活性化に取り組んでいる。
- ・地元女性組織との連携のもと、地区内に自生するカエデから作るメープルシロップを開発・販売している。

【受賞のポイント 限界集落の里山風景と人々の暮らしを次代に継承】

地区内外と密接に連携しながら、土呂部地区の景観と文化を継承するほか、特産品の開発など新たな魅力の創造・発信にも貢献してきた点が評価された。



飯村孝文代表



高校生の茅ポッチづくり

栃木県知事賞

◆サシバの里協議会（市貝町）

【活動の特色】

- ・町のシンボルであるサシバを核として、グリーン・ツーリズムをはじめ、自然と共生したまちづくりに取り組んでいる。
- ・農業体験をはじめ、準絶滅危惧種のキンブナを養殖し放流する「キンブナプロジェクト」や、里山の風景を楽しみ、民家ならではのおもてなしを提供する「縁側めぐり」など、年々活動の幅を広げている。

【受賞のポイント 地域の力を結集して里山のおもてなしを提供】

農業者、商工業者、観光協会など様々な分野の力を結集し、魅力的なグリーン・ツーリズムを展開するほか、観光ガイドの育成により町の持続的な発展に貢献している点が評価された。



阿部正紀会長（中央）と会員



田植え体験の様子

栃木県知事賞

◆株式会社那須ハートフルファーム（那須町）

【活動の特色】

- ・農業生産法人として野菜栽培を行う傍ら、耕作放棄地を活用した菜の花畑やひまわり畑の整備に取り組んでいる。
- ・畜産が盛んな地域であり、地元畜産農家の堆肥を積極的に活用した耕畜連携に取り組んでいる。

【受賞のポイント 菜の花を中心とした地域づくりを先導】

町の景観保全や観光客増加に寄与するだけでなく、この取組をきっかけに、町内で菜の花を栽培する集落が増えるなど、地域への高い波及効果が評価された。



花畑を維持するスタッフ



菜の花畑の様子

特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

◆芦場新田まちづくり推進会（塩谷町）

【活動の特色と受賞のポイント】

- ・担い手不足のため一度解散したが、地域にとって大切な資源である農地や生態系を、後世に残したいという地元住民の思いから、平成 30（2018）年に再結成した。
- ・農道の補修や草刈りのほか、花壇づくりやごみ拾いなど生活環境の向上にも取り組んでいる。
- ・担い手への丁寧な聞き取りにより修繕箇所を決定したり、鳥獣害防止柵を設置したりするなど、担い手が営農に注力できる環境を整備している点が評価された。

特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

◆宇都宮市花き園芸組合（宇都宮市）

【活動の特色と受賞のポイント】

- ・昭和 30（1955）年に設立し、様々なイベントに出展し、長年にわたり宇都宮市産花きの品質の高さを PR してきた。
- ・若手組合員が中心となり、地元小学校等での花育事業を企画・運営している。
- ・イベントでの直売を通じて、多くの人に花のある生活の魅力を伝えていることに加え、消費者の声を組合員が自らの経営に役立てており、産地の発展に意欲的に取り組んできた点が評価された。

特別賞（下野新聞社長賞）

◆那珂川町地域資源活用協同組合（那珂川町）

【活動の特色と受賞のポイント】

- ・木材業、農業、商業など様々な業種のメンバーで構成され、町内の製材会社が排出する余剰熱を利用して、マンゴー、コーヒー豆、ドラゴンフルーツなどを栽培している。
- ・間伐材を用いて建設した交流施設「あかねてらす」は、幅広い世代の交流の場となっている。
- ・林業分野との連携により、特産品開発や構成員の収益性向上などの高い相乗効果が生まれている点が評価された。

特別賞（下野新聞社長賞）

◆石橋南部環境保全会（下野市）

【活動の特色と受賞のポイント】

- ・5つの自治会の農業者と地元住民 129 名で構成され、農地や農業水利施設の維持活動を行っている。
- ・防災・減災を目的とした田んぼダムや、都市農村交流施設「ゆうがおパーク」と連携した田植え・稲刈りイベントの運営などにも取り組んでいる。
- ・組織内外と丁寧な合意形成を図りながら、担い手が安心して営農できる環境づくりに取り組んできた点が評価された。

3 芽吹き力賞

審査経過

今年度の芽吹き力賞には、各地から8点の応募があり、自身の経験に基づく独自性の高い農業に取り組む若手農業者が多く見られた。それぞれが理想とする農業の実現を目指すだけでなく、地域全体の発展に向けた取組も多く、今後の展開が期待される。

審査は「活動の動機と着想、課題解決に向けた創意工夫」の評価を基本に、推進体制や活動の成果、今後の発展性といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て各賞を選定した。

受賞者の概要

栃木県知事賞

◆南部地区ドローン組合（フライワークス）（宇都宮市）

【取組の特色】

- ・ドローンを活用して、地域内を中心に水田の農薬散布作業を請け負っている。
- ・作業受託面積は年間延べ約700haにのぼり、地域農業者の負担軽減に大きく寄与している。
- ・機械メーカーなどを講師に招いた勉強会を定期的で開催しており、組合員はもとより地域全体にドローンが普及するきっかけとなっている。

【受賞のポイント ドローンを活用した地域農業の新たな形づくり】

水稲播種や肥料散布など、農薬散布以外にも幅広い活動展開を試みており、今後、担い手の高齢化が加速するなかで、地域全体で維持する農業のモデル事例となり得る点が評価された。



ドローンを操縦する戸崎勇丞代表



組合員による会議の様子

栃木県知事賞

◆日下 篤（市貝町）

【取組の特色】

- ・「ぶどう農家が造るワイン」を醸造するワイナリー設立の夢を実現するため、非農家出身の新規参入者として醸造用ぶどうの栽培に取り組んでいる。
- ・規模拡大に必要な資金をクラウドファンディングで募り、農業者や洋菓子店、陶芸家など様々な地元事業者との連携のもと、自らのぶどうで醸造したワインを含む特産品を、ふるさと納税の返礼品として贈っている。

【受賞のポイント 新規参入で地域に貢献するモデルに】

クラウドファンディングを活用して資金調達したり、基本的な栽培技術を徹底したりすることで、安定した経営を実践するだけでなく、ぶどうの搾りかすを堆肥として用いた「ワイン米」などの特産品づくりに取り組み、町に新たな風を吹き込んでいる点が評価された。



日下篤氏



醸造用ぶどう

栃木県知事賞

◆青木 徹・青木 薫（栃木市）

【取組の特色】

- ・いちごと水稲の複合経営から、麦・大豆に全面転換した。
- ・国産需要が高まっているパン用小麦「ゆめかおり」や、大豆「里のほほえみ」に着目し、試行錯誤しながら安定生産のための輪作体系を確立している。

【受賞のポイント 需要に応じた麦・大豆生産で安定的な経営を実現】

畦畔管理を徹底することで地域住民の信頼を獲得し、着実に農地集積を行ってきた点、さらに、需要の動向に高くアンテナを張りながら作付計画を立て、経営を発展させてきた点が評価された。



青木徹氏（右）・青木薫氏（左）



大豆の収穫風景

特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

◆檜山 宗志（さくら市）

【取組の特色と受賞のポイント】

- ・両親から継承した水稲専作経営にねぎを導入し、作付面積、出荷量ともに発展させてきた。
- ・大学時代に学んだ経営学を活かし、試行錯誤しながら生産や流通などあらゆる面から経営改善に取り組んでいる。
- ・学問的な知識と、自身の経験に基づく考えを組み合わせることで、作業の効率化による出荷量増加と雇用労働力の確保という、経営規模拡大に向けた明確な課題を設定している点が評価された。

特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

◆中山 克彦（鹿沼市）

【取組の特色と受賞のポイント】

- ・茨城県から移住し、研修制度や就農支援体制が充実している鹿沼市でいちご栽培を始めた。
- ・病虫害防除の徹底により単収の向上に努めた結果、3作目にして県平均を上回る単収が確保できた。
- ・地域の先輩農業者や関係機関と積極的にコミュニケーションを取りながら、地域に溶け込んできた点と、新規参入希望者に対して就農のアドバイスを発信し、後進へのフォローアップにも取り組んでいる点が評価された。

特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

◆木塚 雄介（佐野市）

【取組の特色と受賞のポイント】

- ・「いちご栽培・ライフ・バランス」の実現を目標に掲げ、IT 関連企業勤務の経歴を活かし、作業の効率化を中心とした経営改善に取り組んでいる。
- ・スマート農業機器を活用したハウス内環境の見える化や、従業員が働きやすい環境づくりを行っている。
- ・自身の経営における問題点を丁寧に洗い出し、課題と目標を設定したことで、単収増加と従業員定着を達成し、いちご栽培と家庭生活の両立を実現している点が評価された。

特別賞（下野新聞社長賞）

◆石井 晶・石井 亜由子（那須塩原市）

【取組の特色と受賞のポイント】

- ・埼玉県から移住し、ワイン特区に認定されている那須塩原市にて醸造用ぶどうを栽培する。
- ・動物との共存を考えるきっかけを消費者に提供したいとの考えから、醸造したワインは、野生動物をモチーフにしたラベルをつけて販売している。
- ・市の観光 PR イベントに参加し、ワインを武器に地域活性化にも携わっている。
- ・醸造用ぶどう生産者のネットワークを活かし、着実に栽培技術を向上させている点や、地元醸造会社との連携のもとつくる正真正銘の那須塩原市産ワインで、地域に貢献している点が評価された。

特別賞（下野新聞社長賞）

◆株式会社ワールドアグリファクトリー（足利市）

【取組の特色と受賞のポイント】

- ・農業法人として露地野菜を中心に栽培を行うとともに、規格外野菜をピクルスに加工し「食べられる野菜食卓インテリア」として、関連企業や飲食店などに販売している。
- ・野菜の調整や瓶詰めなどの作業は、社会福祉法人と連携し、障がい者と共に作業している。
- ・法人の利益増加や、障がい者の雇用機会創出につながる取組であることに加え、食べるだけでなく見て楽しむという野菜の新たな価値を、消費者に提供している点が評価された。